鳥取県軟式野球連盟　内規

1．少年・学童軟式野球大会について

全国大会・中国大会への代表チームの派遣方法

（少年）

全日本少年春季軟式野球大会県予選会の準優勝チームを全日本少年秋季軟式野球中国大会に派遣する。

（学童）

全日本学童軟式野球大会県予選会上位4チームの順位によって次のとおり派遣する。

優　勝	全日本学童軟式野球大会
準優勝	阿波おどりカップ全国学童軟式野球大会（徳島県）
3位（2チーム）	筑後川旗西日本学童軟式野球大会（福岡県）

2. 県大会への参加人員について

県大会（予選会）に出場するチームは、試合開始時点で10名以上の選手の参加がなければ出場を認めない。なお、10名の参加で出場を認められたチームが、事故により9名となった場合でも試合を続行するが、さらに選手が欠けて試合続行が不可能になった場合は、当該チームを棄権とし、次年度の同大会に出場させないこととする。

3. 県大会（予選会）の実施方法（全国大会、中国大会予選）

1）成年の部

（Aクラス）

9回ゲームとし、延長戦は行わない。
同点の場合は、タイブレーク方式で勝敗を決定する。（○×抽選で決定しない。）
得点差によるコールドゲームは、7回以降7点差で適用する。

（B・Cクラス）

準決勝までは7回ゲームとし、決勝は9回ゲームとする。
同点の場合は、タイブレーク方式で勝敗を決定する。（○×抽選で決定しない。）
得点差によるコールドゲームは、準決勝までは5回以降7点差、決勝は7回以降7点差で適用する。

（国民体育大会）

（Aクラス）の規定を準用する。

2）少年・学童の部

（少年の部）

7回ゲームとする。同点の場合は、タイブレーク方式で勝敗を決定する。
タイブレーク方式は、最長9回まで実施することとし、なお同点の場合は、9人の○×抽選で勝敗を決定する。 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差で適用する。

（学童の部）

6回ゲームとする。試合は1時間30分の時間制とする。試合開始から１時間30分を経過したら、新しいイニングにはいらない。得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差で適用する。

同点の場合は、タイブレーク方式で勝敗を決定する。
タイブレーク方式は、最長2回を限度に実施することとし、なお同点の場合は、9人の○×抽選で

勝敗を決定する。

次のとおり投手の投球数制限を採用する。

(1) 1人の投手の投球数は1日70球以内(4年生以下は60球以内)(以下「規定投球数」という。)とする。なお、1日2試合を行う場合、規定投球数以内で投球することができる。
(2) タイブレークになった場合、規定投球数以内で投球することができる。
(3) 試合中に規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球することができる。
(4) ボークにもかかわらず、投球したものは、投球数に算入する。
(5) 牽制球や送球とみなされるものは投球数に算入しない。
(6) 投球数の管理は、大会本部が行う。

3) 日本スポーツマスターズ県予選会

東部1、中部1、西部1、の3チームのリーグ戦とする。
7回ゲームとし、同点の場合はタイブレーク方式で勝敗を決定する。
(○×抽選で決定しない。)
指名打者制を採用する。
得点差によるコールドゲームは、適用しない。
2勝したチームを代表とする。同率の場合は、次の順位により代表を決定する。
①得失点差　②対戦成績　③抽選

4) 尾坂杯(A. B. C)

7回ゲームとし、同点の場合は、タイブレーク方式で勝敗を決定する。
(○×抽選で決定しない。)
得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差で適用する。

5) 県民スポレク祭は別に定める。(県民スポレク祭実施要項)

この内規は昭和63年2月28日から施行する。

平成　2年11月30日一部改正
平成24年12月　9日一部改正
平成27年　2月22日一部改正
平成27年12月　6日一部改正
平成28年　2月28日一部改正
平成28年12月　4日一部改正
令和　2年　2月23日一部改正
令和　2年12月　6日一部改正
令和　4年　2月27日一部改正